

## ボートピア進出について

2010.9月議会 石橋佳枝

10年前に誘致した場外馬券場の隣に、今度は舟券売り場を誘致するこの話にどこまで市民を犠牲にするのかと、市民の血税をつぎ込んだ市民の財産である市有地を、ギャンブル場につぎつぎと売り、二重三重に市民を苦しめることになんの責任も感じないのかと、深い憤りを感じます。工業団地造成の借金が35億あるからと、来る当てのない工業団地造成の失敗のツケを市民に負わせる。市民の安全と福祉、生活と子ども、環境を守る責任のある自治体が、本当にそれでいいのでしょうか。誘致の撤回を求め以下質問します。

まず、第一に、場外舟券売り場・ボートピア誘致が市民の生活、教育、環境に与える影響をどう認識されているのでしょうか。

10年前に馬券場が出来てから、ギャンブルはよくないと言っていた人がのめり込んだ、土日は畑から消え、馬券場へ行ってしまう。また土日馬券場に友人と通う息子は給料の大半を馬券につぎ込む、など、いろんな話を聞きます。仕事に身が入らない、借金、生活、果てには人間そのものが壊される。場外馬券売り場を誘致したことによる市民生活への影響を、市民、心療内科の医師、教師などに聞き、検証するべきではないか。その検証がないままに新たなギャンブル場を誘致することは許されないではありませんか。

「公営ギャンブルはアミューズメント用地の用途にかなったもの」というのが、全協での市長のボートピア進出に同意する理由の説明でした。しかし、ギャンブルは娯楽や楽しみ、遊園地などとは全く違います。健全な娯楽ではなく、麻薬のように危険な病気です。しかも舟券売り場は350日、夜も開催です。馬券場以上の影響を与えるでしょう。市長の認識を、具体的な答弁をもとめます。

### 問い1

つぎに、米子や周辺の地域への経済的な影響について、合わせてJRA 場外馬券場の経済波及効果について伺います。

- ① 舟券売り場は、一日1000万円、年間35億円の売り上げが見込まれています。「ボートサービス」という施設会社の説明によると、これは国土交通省の計算によるもので、半径10キロ圏内から一日1,100人が来場すると見込んでいると伺います。これは米子市周辺半径10キロの地域から35億の金が、舟券売り場に吸い上げられるということです。これが不況で落ち込んでいる地域経済に大きな打撃となるのは明らかです。消費に、生活

するために回るべきお金が舟券売り場に消えることで経済はますます冷え込むという心配はないのか、お尋ねします。 **問い2**

- ② また場外馬券場の経済波及効果について、最初は58億円、あとには35億円と説明されたが、実際にはどうだったのか。森田前市長が01年の6月議会の岡村議員の質問に、J R Aに調査をお願いしている、と答弁されています。

一体いくらかと計算されていますか。 **問い3**

また、舟券売り場の経済波及効果はいくらであるとみていますか。 **問い4**

- ③ 雇用が増えると言われたが、今の雇用の状況はどうか。 **問い5**

三つ目に、舟券売り場誘致は、全米子市民と10キロ圏内の市町村の意見を聞いて決めるべきです。

場外舟券売り場の誘致には「地元」同意が必要ということで、今崎津自治会に同意か否かが問われています。「地元」は確かに一番の被害者であることに間違いありません。

しかし、ボートピアの影響は崎津に閉じ込められない。米子全態、10キロ圏内の境港など周辺地域にもおよびます。

米子市長は全米子市民に説明し、意見を聞くべき、そして周辺市町村にもまた意見を聞くべきです。市長の答弁を求めます。 **問い6**